



「見たり、聞いたり、探ったり」No.228

通算 No.380

青 木 行 雄

シンガポール行状記 No.2

米朝シンガポール首脳会談と私の体験記

平成30年11月22日縁あってシンガポールに渡航し、一番の興味はなんと言っても「米朝首脳会談」の場所と首脳の宿泊したホテル等であった。テレビや新聞で見た場所などをこの目で確認したかったからでもある。そして私のシンガポール体験記。

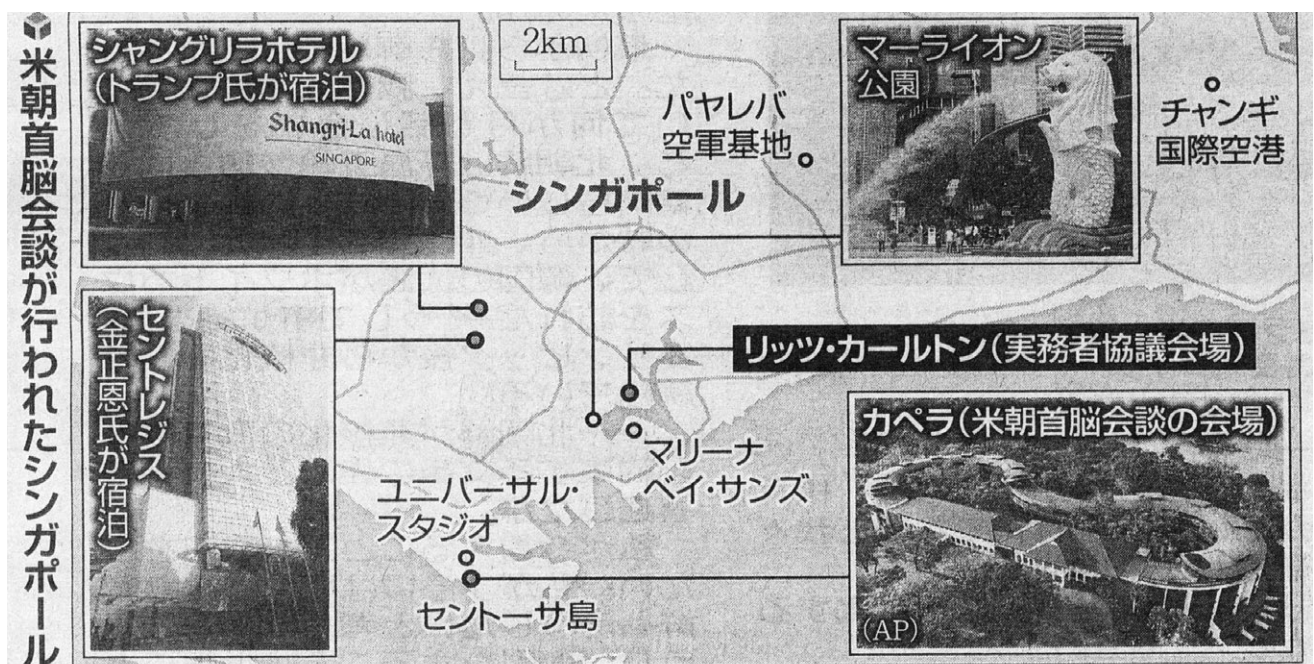
『讀賣新聞』、平成30年6月13日(水曜日)朝刊より

大きな見出しで

「初の首脳会談、共同声明、具体策は示さず」

米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長(国務委員長)は12日、シンガポールで史上初の米朝首脳会談を行い、共同声明に署名した。声明には正恩氏が「完全な非核化」に取り組み、トランプ氏が北朝鮮の体制の「安全の保証」を約束すると明記した。トランプ氏は会談で日本人拉致問題も提起した。

このような見出しで一面を飾った。



※『讀賣新聞』より

政治的なことは別にして、どんな所で泊り、どんな所で会談をしたのかがこの目で見たかったのある。

※トランプ大統領宿泊ホテル、「シャングリラホテル」

※金正恩朝鮮労働党委員長宿泊ホテル、「セントレジス」、シャングリラより1km程、はなれた場所にあった。

この米朝首脳会談の会場はセントーサ島内の「カペラ」というホテルであった。このセントーサ島に渡るには1本の橋とケーブルカーで渡るしかない為に治安と安全を考えてこの島に決めたのかもしれないと勝手に思った次第である。

シンガポールに行った事のある方はだいたいおわりの事と思うが、シンガポール・コンシェルジュ・マップにのっているホテルだけでも82ヶ所あり、その内セントーサ島には15ヶ所もあるという。トランプ大統領の宿泊した高級ホテル、「シャングリラホテル」で昼食をとったので詳しく記してみる。

地図でもわかるように中心地からちょっと離れた静かな場所にあった。



※トランプ大統領が宿泊した「シャングリラホテル」の看板



※シャングリラホテルの玄関口。さすがに高級感が漂っている



※シャングリラホテルのプール施設。富豪家の長期滞在にふさわしいホテルであり、ワクワクするようなプールである



※プールサイドでくつろぐ滞在客。ホテルに了解は取ったが、ないしょの写真である

シャングリラの歴史はシンガポール初のラグジュアリーホテルをオープンした1971年(昭和46年)に始まるという。

現在ではアジア、北米、中東とヨーロッパに100件以上のホテル、40,000室以上の客室を擁し、ますます新規オープン開発を続けている、世界有数のホテルオーナー&マネジメント企業として事業を展開しているという。こんな有数な中の高級ホテル、シンガポール「シャングリラ」にトランプ大統領は宿泊された。

こんなホテル内のミシュランの星を獲得した広東料理店にて昼食をいただいた。高級ホテルで、高級料理を異国シンガポールの地で食する気分は、しかもトランプ大統領も食したという場所で会食が出来大変幸せな気分であった。実は皆の会食中にホテル内の上階に許可を頂き、階上から写した写真が前ページの写真である。プールサイドでいかにも人生を満喫しているかの様子がうかがえる。満悦の写真である。

そして「金正恩」氏が宿泊したホテルは「セントレジス」、シャングリラホテルに程近く車で5～6分程の近い所にあり、ホテルの前を通ったが、写真を撮ることが出来なかった。

また、米朝首脳会談のおこなわれたセントーサ島の「カペラホテル」も近くまで行くことは出来なかったが、セントーサ島に行くには島を繋ぐ1本の道路と本土のベイタワーの5階から出るケーブルカーに乗り島に渡った。高度の為、島全体が見渡すことが出来、「カペラホテル」を遠くに見ることが出来た。

この島に渡るには入島税がかかるということでケーブルカーもかなり高額であった。島内には「ユニバーサルスタジオ・シンガポール」、大型の「水族館」、「アドベンチャー・ウォーターパーク」等々の遊技施設や「カジノ」等もあって、それにゴルフ場2ヶ所、ホテル15ヶ所等、まるで遊行の島である。その中に会談の「カペラホテル」がある。どうしてこの島で会談が行なわれたのかわからないが警備しやすい島なのかも知れない。

また私がシンガポールをこの目で見て、聞いて探った事の感想を記してみよう。

私は30年程前に友人が商社にいて、シンガポールで支店長を務めていた時期に行った事がある。町の清潔さや治安の良さ等はあまり変わっていないようだが、今回は緑がいっぱいで街のどこに行っても木々



※セントーサ島のホテル郡左側の上部に小さく見えるのが、会談のあった「カペラホテル」である。ケーブルカーより写す



※「カペラホテル」の全容。セントーサ島内にある、5つ星のリゾートホテルで充実した設備や施設も完備という。米朝会談の会場

の緑がすばらしいと思った。そして日本の大手建設会社の工事現場も3～4箇所見かけ嬉しくなった。我が社が日本でお世話になっている会社でもある。

街路樹に緑が多いのは、すべての道路に街路樹を植えること、という法律があるかららしい。政府が主導して樹の手入れをしていると言うこと。それに熱帯雨林気候の為に年中を通して花がいっぱいで旅行者も楽しめる。熱帯の花に興味もあったので教えてもらい、マリーナベイにあったガーデン・バイ・ザ・ベイへ行って来た。日本では見ることのできない珍しい種類の草花をいっぱい見ることが出来た。

シンガポールは多民族国家ということで、様々な文化に触れることも出来た。

民族別の人口構成を案内ガイドに聞いてみると中国系が圧倒的に多く70パーセント、マレー系が15パーセント、インド系が8パーセント、残りが7パーセントで欧米系を始めとする多国籍のようである。現在の人口は560万人ぐらいとのことで620万人でこの国がいっぱいになり、人口増を懸念しているといわれる。

200年程前の昔、イギリスのラッフルズ卿がシンガポールに上陸し、植民地政府を築いて以来、民族別の住み分け政策が行なわれた。それが今日になってもチャイナタウン、リトルインディア等として残されており、そのエリアに一步踏み入れれば全く違う文化を体験することが出来るというのでチャイナタウンにも行って来た。横浜、神戸等ともちょっと変った雰囲気で長年の歴史が伺えた。

台湾等にも似た所があって、食事は家庭内で食べるより外食が多いと聞いていたが、シンガポールも似たところがあった。さすがに南国らしく、ココナッツやドリアンも多く売られ食べ歩いて来た。ドリアンを食べるのも目的であったので満足のひとつである。ドリアンは美味しいが、強烈な臭いであるため、地下鉄に持ち込みが禁止で、「ドリアン持ち込み禁止マーク」を見かけた。おもしろいと思う。

話がちょっとそれたが多民族国家であるから言語も宗教も異なる。中国仏教、イスラム教、ヒンズー教、キリスト教、この四教が主な宗教らしいがお互いの宗教を尊重しあい、対立することなく仲良く共存しているという。街のいたるところで中国寺院、ヒンズー寺院、イスラム教の珍しいモスクを見ることが出来た。

言語については、シンガポールでは英語、中国語、マレー語、タミール語の四言語が公用語として認



※「ジャンボ」という、海鮮料理の店で海蟹が非常に美味しかった。非常に大人数はいる店であった。もちろん予約が必要



※チャイナタウンの風景。外食が多いようである。なんとも雰囲気がはなばなしい。



※シンガポール5つの地下鉄路線。自動運転で運転士・助手なし



※地下鉄内にはられている4つの禁止マーク。果物の「ドリアン」があるのがおもしろい

められているらしい。地下鉄やバス停での表示はすべてこの四語表記になっている。また、ちまたでは広東語、福建語なども使われているようだが会社等でいざ会議になるとすべて英語で行なわれるという。今回も一番残念に思った事は私の英語が通じない事であった。うまく英語が話せれば外国の旅行は10倍以上も楽しめるはずであると。

シンガポールは暑い国のせいか人々はとてもフレンドリーで親切であった。治安も大変良く感心した。この旅に同行した友人がセントーサ島に渡る時、ケーブルカーの中であまりにも景観のすばらしさに何枚かの写真を写し、ついスマホをケーブルカーの中に忘れてしまった。降りて20分ぐらい後に気がついた。外国での盗難や忘れものはまず出て来ないのが普通と思うが、まずケーブルカーの事務所へ問い合わせをしてみるとちゃんと届いていた。手続きもあって1時間程で返ってきたが、こんな所にもシンガポールの治安の良さがうかがえる。しかし、一方でエレベーターの中に15分程重量オーバーで暑い最中閉じ込められたのには閉口した。定員オーバーにブザーが鳴らないまま動きだし、すぐに止まってしまった。そして15分、こんな所にまだまだ遅れもあるのかな～とかえて安心した。

シンガポールは国の秩序を守る為、行為に罰金が科せられる。一般的にもこの国は罰金が多いことで知られているが、例を挙げて見ると、①たばこの投げ捨て、②ゴミのポイ捨て、③たん・唾の吐き捨て、④横断歩道以外での横断、⑤禁止区域での飲食や喫煙(MRT駅構内、車内、タクシー、バス内、劇場など)は罰金最高1,000シンガポール・ドル＝日本円約80,000円の対象となるらしい。

チューインガムは持ち込み禁止、等々である。

私の利用した旅行社は(株)JTBであったがシンガポールに支店があって良く面倒を見てくれた。帰りに郊外の工場に案内された、シンガポールは生ゴムの生産が世界でも有数らしい。そこには営業の日本人がいて商品の案内をこまかく説明してくれた。この品は「生ゴムの枕」である。東京では10,000円以上するといったがなんと5,000円という。3品買って1品4,000円と言うからおもわず買ってしまった。持ち運びには空気を抜いて5分の1に小さくなり、持ち帰ることになった。かなりの参加者が買ったが、私には最高のみやげ品になった。



※マーライオン広場から写したなんとも幻想的なマリーナベイ・サンズホテルの夜景。すばらしい風景であった。この屋上にプールがある



※マリーナベイ・サンズホテルの屋上にある200mのプール。(ギネスのプール) 太陽に世界で一番近いプールと言える

枕は睡眠にかなりの影響があると言われているが、夜中にトイレに行くのも少なくなり寝るのが楽しくなった。実に快眠である。シンガポールよありがとう。

今一番人気のホテルマリーナベイ・サンズホテルに宿泊し、200mの高所のプールを満喫、マーライオンを見学し、夜の噴水と音楽と光のショーも堪能、摩天楼の林立する町並みを見学、チャイナタウンに行き、ドリアンを食し、シーフードもタラフク食べ、夜のナイトクラブを楽しみ、セントーサ島にも行き、水族館を見学、米朝の会談の様子も聞いて、首脳の前泊場所も確認し、マリーナベイ・サンズホテル周辺は一晩中の賑わいを見ながら、カジノにも行き、地下鉄も乗れて、無事に帰国出来た幸せに感謝し、お世話になった方々にお礼を申し上げ、この手記を書かせて頂きました。感謝・感謝。

平成31年1月13日 記



※シンガポール チャンギ国際空港の内部ロビー。広々としていた。規模が大きい